

◆ 高山れおな選

- 梅雨寒や鳩も身を寄せ雨宿り (川崎市) 大森 実
 風死してトリリオネアは火星へと (さいたま市) 関根 道豊
 広島の際雨知る傘捨てられず (山形市) さとうみちこ
 三社祭群れたる儘にずれて行く (東京都世田谷区) 坂野 辰
 螢火の従き来る賀茂の夜市かな (奈良市) 藤岡 道子
 徴にさへ功罪のあり清酒汲む (東京都中央区) 久塚 謙一
 父の日の後姿を練習す (松原市) たろりずむ
 夏蝶の斑はげしく校舎越ゆ (越谷市) 中野 光宏
 甚平を追ひ越していくあつばつば (松山市) 杉山 望
 一山をゴッホの如き青葉風 (福山市) 高垣 光利

【評】大森さん。大人しくも心の深い着眼。関根さん。イーロン・マスクを火星進出の夢に駆り立てているのは地球の未来への悲観らしい。「風死して」の所以。さとうさん。数百円のビニール傘(?)も、こう言われると素敵な思い出の品に。

◆ 小林 貴子 選

- 曾祖母の傷語り継ぐ沖縄忌 (加東市) 藤原 明
 オランダと引き分けていま夏の朝 (真岡市) 竹田しのぶ
 子子の文字の化身が浮き沈む (横浜市) 藤本 博夫
 夕立やテンション上がる魚たち (大阪市) 大塚 俊雄
 美輪明宏逝き螢火の舞い狂う (横浜市) 飯島 幹也
 玫瑰やタンカー刻々と過ぎり (横浜市) 藤木 義弘
 夏向きの短髪仕上げ風通る (愛知県阿久比町) 新美 英紀
 死は救いとぞ叔母のゆく夏の空 (福島市) 安斎真貴子
 白靴の男てんぷら塩で食ぶ (各務原市) 林 哲彦
 白神や樹幹に緑雨さざ波す (秋田市) 松井 憲一

【評】一句目、曾孫にあたる若者が沖縄戦の悲惨さを次世代へと語り継ぐ。貴重なことだ。二句目、どんな時刻かに関わらず、応援することが楽しい。三句目、水中を動くボウフラが象形文字に見えてくる。四句目、夕立に魚が何だか嬉しそう。